

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss/>

第171号 会 報 2001年 1月 19日

目 次

2001年地球惑星科学関連学会合同大会.....	1	大林奨励賞審査報告.....	6
第21期役員選挙結果.....	2	第209回運営委員会報告.....	8
第108回総会報告.....	2	大林奨励賞を受賞して.....	9
第108回総会式次第.....	2	国際学術交流事業補助金受領者の報告.....	12
会長挨拶.....	3	学術会議研連報告.....	14
地球電磁気・地球惑星圏学会内規.....	4	人事公募.....	14
学会基金による国際学術交流事業運用規定.....	6	SGEPSS Calendar.....	16

2001年地球惑星科学関連学会合同大会

地球惑星科学関連学会 2001年合同大会

日程 2001年6月4日(月)・8日(金)

場所 代々木国立オリンピック記念青少年総合センター

予稿集原稿投稿締切 3月 2日(金)午後5時
参加登録締切 3月30日(金)午後5時
宿泊予約締切 3月30日(金)午後5時

2001年地球惑星科学関連学会合同大会が下記のとおり開催されます。

日程：2001年6月4日(月)～8日(金)

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

TEL. 03-3467-7201 (代)

FAX. 03-3466-7010・03-3467-7797

<http://www.nyc.go.jp/>

交通：

●小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分

●京王帝都バス

新宿駅西口(16番)、または渋谷駅南口(14番)より乗車、代々木5丁目下車

●地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分

第21期役員選挙結果

平成12年12月に行われた選挙の結果、第21期（2001 - 2002年度）地球電磁気・地球惑星圏学会役員は下記の方々に決まりました。（投票数181、遅着無効投票数11）

会長

荒木 徹 56票

（次点：本蔵 義守 29票）

松岡 彩子 95票

井口 博夫 94票

渡部 重十 94票

中村 正人 87票

小野 高幸 86票

評議員（9名+前会長）

河野 長 147票

福西 浩 110票

上出 洋介 105票

西田 篤弘 100票

本蔵 義守 100票

江尻 全機 93票

鶴田 浩一郎 74票

國分 征 67票

大家 寛 61票

（次点：深尾 昌一郎 36票）

以上、得票順で上位11名が運営委員に選ばれました。

この他、20票以上の得票者は以下の方々です。

麻生 武彦 85票

石井 守 78票

小原 隆博 76票

津田 敏隆 72票

品川 裕之 70票

糸長 雅弘 59票

岡田 敏美 57票

運営委員（得票順11名、調整枠3名）

歌田 久司 151票

綱川 秀夫 130票

山崎 俊嗣 126票

大村 善治 120票

家森 俊彦 106票

橋本 武志 104票

この中から選出機関のバランスを考慮の上、新会長による調整枠として次の3名の方々が運営委員に選ばれました。

麻生武彦、小原隆博、品川裕之

第108回総会報告

第108回講演会は、2000年11月20日（月）から23日（木）まで、国立極地研究所のお世話で板橋区立文化会館および同産文ホールにて開催された。22日午後に極地研究所の渡邊興亞教授による特別講演「南極氷床—雪と氷の世界とその変動—」があり、これに引き続き総会が開催された。江尻会員による開会の辞の後、松本会長の提案により家森運営委員が議長に指名された。平澤大会委員長の挨拶、松本会長挨拶の後、大林奨励賞が笠羽会員と清水会員に授与され、松本会長からその審査報告がなされた。続いて第209回運営委員会、日本学術会議の地球電磁気、電波科学、極地、宇宙空間の各研究連絡委員会の報告がなされた。関連国際団体の報告として、SCOSTEPの活動、URS1総会、AP-RASC'01国際会議、IUGG2003年札幌総会の準備状況について報告があった。この時点で、定足数

第108回総会式次第

開会の辞

議長指名

大会委員長挨拶

会長挨拶

大林奨励賞授与・審査報告

第209回運営委員会報告

研究連絡委員会報告

関連国際団体報告

議事

会計年度の半年移行について

その他

次々期開催地

謝辞

閉会の辞

228名に対して、232名（委任状157）の出席者があり、総会は成立して議事に入った。学会基金による国際学術交流事業運用規定改正案が賛成多数で承認された。春の合同大会を避けて、秋の総会で予算・決算の承認を得るために会計年度を半年移行させるべく、その具体的な実施方法を運営委員会で検討してゆくことが賛成多数で承認された。

次々期開催地について、岩上運営委員から九州で開催したいという提案があり、それに対して九州大学の飯島会員より2001年11月後半（22～25日）という日程で引き受ける旨の返答があった。福西評議員により極地研究所に対する謝辞が述べられた後、閉会した。

（大村 善治運営委員）



第108回総会・講演会会場の板橋区立文化会館 表玄関

会長挨拶

会長 松本 紘

今回の秋の総会が私にとって会長として臨む最後の総会となりました。光陰矢の如しとはよく言ったものと感じます。会長就任の折にお約束した事柄のいくつかは実現しました。学会を活性化するためにお願いした「分科会活動」は会員諸氏のご努力により順調な滑り出しをしたと思います。この活動は当学会と隣接する各方面の学際領域の研究者と交流を深めるための受け皿として、今後の更なる発展を期待いたします。しかし、今期には予期せぬ「合同大

会の問題」が発生し、運営委員会の多くの時間を取られたため、重要な案件である学会名の改変などには着手できなかったのは残念です。いろいろな会合でわが学会の名前を正確に呼んでいただいたことはついに一度もなかったことが、現在の名前がいかにも浸透していないか、いかに口にしにくいかを如実にあらわしています。やはり次期の会長、運営委員会では学会の改名を真剣に検討していただきたいと思

われわれの学会SGEPSSは地球物理学関連学会のなかでも、会員数では決して大きい学会ではありませんが、国際的にもっとも活躍の著しい学会と自負してよいと考えます。IUGG会長、URSI会長、COSPAR副会長、IAGA会長など国際科学団体の役員を多く輩出し、その活動、実力は高く評価されています。また、米国地球物理学会(AGU)などにおいても多くの賞、フェロウ、Editorなどをほかの地球物理学関連学会に比べて数多く輩出しています。また、国内にあつてはJGGの発展の後継誌EPSの中心的役割を果たしていることもご存知のとおりであります。学術内容は多岐にわたり、宇宙空間、惑星圏、惑星・地球大気、磁気圏、電離圏、地球内部電磁気学など基礎学問から応用的学問に広がっています。いわば、地球電磁気学、宇宙空間科学(space physics)、大気科学(Aeronomy)、惑星科学、宇宙電磁気学の一部などの基礎科学に加え、宇宙天気学や宇宙機によるプラズマ理工学などの応用科学を包含する発展途上の学問領域を対象としています。したがって、合同大会がわが学会の会員が主要メンバーとして運営を続ける体制が決まったことはまことに自然であり、よろこばしいことです。

また、非常にうれしいこととして、西田篤弘会員が日本学術会議の会員に選出されたことをあげたいと思います。わが学会から学術会議会員が選ばれたのは初めてのことであり、学術会議の研究連絡委員会活動や科学研究費補助金の審査などにおいていろいろ有用な情報が身近なものになることが期待できるでしょう。

科学研究費の細目の見直しが文部省の学術審議会

のほうで進められていますが、学術会議の研連の場合でも議論されています。いわゆる「超高層物理学」の細目が変更の対象になっていますが、会長の私見としては変更する必要があるのなら「太陽地球系物理学」がよいと返事しておきました。

二年間の会長経験をとおして強く感じたことは、会長・運営委員会の執行部体制が前期の執行部から必ずしもスムーズに引き継げないということです。運営委員会のメンバーは半分くらいが旧メンバーなのである程度引継ぎが順調に行きますが、会長用務はそのようなわけには行かないのです。このような問題を避けるために、多くの国際科学団体では会長と次期会長を並行して執行部に入れて継続性を保つよう努力しています。そこで、最後の提案として、わが学会もぜひ次期会長を選挙で選出するという体制を次期執行部で検討していただきたいと思います。評議員会ではこの方向で進めることには賛同を得ております。

「光陰、矢の如し」と思う反面「帰心、矢の如し」という気持ちもいたします。現在背負っているマルチジョブのひとつがなくなるとすると、とても晴れやかな気持ちでもあります。残された会長期間中は全力投球いたしますが、次期会長にバトンタッチできる日を心待ちにしているのも己の心の中に感じています。

会員の皆様、運営委員の皆様、評議員の皆様、至らぬ会長を助けていただき、まことにありがとうございました。特に、大村総務担当委員には甚大な支援をいただきました。紙面を借りてお礼申し上げます。本学会のますますの繁栄と発展を祈念いたしまして私の挨拶といたします。

地球電磁気・地球惑星圏学会内規

平成12年11月20日改正

第1条

本会の事務所は日本学会事務センターにおく。

第2条

役員選挙は次の通りとする。

1. 会長の選出は単記無記名投票で行なう。ただし最高得票者が2名以上ある場合には最年長者が会長に就任する。

2. 評議員の選出は9名連記無記名投票を行い、得票数の順位に従って上位9名を当選者とする。なお得票同数者がある場合には年長者を当選者とする。
3. 運営委員については下記の様式に従い11名連記無記名投票を行い、合計得票数の順位に従って上位11名を選出する。得票数が同数の場合は年長者を上位とする。新会長は運営委員会の継続

性ならびに運営委員選出機関のバランスを考慮し新旧運営委員と相談の上、定数14名の残り3名を選出する。

主として地球惑星内部・固体物理学を研究する会員から 3名

主として地球惑星大気圏・超高層・宇宙空間物理学を研究する会員から 3名

全会員の中から 5名

ただし同一人を評議員と運営委員に重複して記載してもさしつかえない。なお、3期連続運営委員経験者は次期の運営委員として選ばれても辞退することができ、通算5期経験者は再任を永久に辞退することができる。これらの氏名は選挙に先立ち全会員に通知する。

4. 正会員は2名以上の他の正会員により推薦された場合、運営委員に立候補することができる。また、運営委員会は運営委員候補者を推薦することができる。学会はこれらの運営委員候補者の氏名、勤務先、研究分野、推薦者名などを選挙広報に掲載し、投票に際しての参考資料とする。
5. 前項の選出において、もし同一人が2種以上の役員に当選した場合は、本人の意思によりその一つを選ばなければならない。
6. 前項のために定数に欠員が生じたときは、次点者を繰り上げ当選とする。

第3条

会長に事故のある時は、運営委員会および評議員会で協議の上会長代理を決定する。

第4条

会費納入および未納入会員の取扱について

1. 会費の納入は原則として各年度の第1四半期（4～6月）に全額納入すべきものとする。
2. 未納会費納入勧告をしたにもかかわらず会費を2年連続滞納した場合には、期限をつけた最終的会費納入勧告を送り、その期限内に会費納入または納入の意志表示がなければ退会を希望するものとみなす。
3. 一度退会した会員は新たに入会申込手続きをとれば再入会しうる。

第5条

科学研究費審査員候補者の推薦を依頼された場合、その都度運営委員会で投票により正会員の中から候補者を推薦する。

第6条

日本学術会議会員候補者および会員推薦人の選出について

1. 日本学術会議会員候補者および会員推薦人は、本学会正会員の投票により選出される。
2. 上記選挙にかかわる被選挙人は、運営委員会および評議員会の議を経て、それぞれ複数名決定される。
3. 選挙の結果、次の事態が生じた場合は運営委員会の議を経て会長が決定する。
 - (1) 会員候補者と会員推薦人が同一人となった場合。
 - (2) 同点得票のため決定できない場合。
 - (3) 辞退者が現れる等問題が生じた場合。

第7条

地球電磁気学研究連絡委員会等委員候補者の選出について

地球電磁気学研究連絡委員会等委員候補者は、地球電磁気・地球惑星圏学会正会員の投票により正会員の中から選出する。但し、地球電磁気学研究連絡委員会委員の内1名は地球電磁気・地球惑星圏学会会長もしくは運営委員をもってあてる。

第8条

学会基本資料の継続的管理について

1. 学会会報、各回運営委員会議事録、講演会・総会プログラム、予算決算書、各会員名簿および学会誌は、その一部ずつが地球電磁気・地球惑星圏学会基本資料として継続的に保管される。
2. 継続的保管の任務には運営委員会があたり、基本資料の保管場所は日本学会事務センター地球電磁気・地球惑星圏学会資料棚とし、保管内容は各期運営委員会毎に明確に引き継がれるものとする。

学会基金による国際学術交流事業運用規定

平成12年11月22日改正

目的：

本学会会員と世界の地球電磁気・地球惑星圏科学関係の研究者との学術交流を図る。

事業内容：

(1) 本学会が主催または共催する研究集会に参加する主としてアジア諸国の研究者の来日旅費及び滞在費（全額または一部）を補助する（略称：外国人招聘事業）。

(2) 外国で開かれる国際的な研究集会へ主として若手の会員が参加するための経費（渡航旅費及び滞在費）の一部を補助する（略称：若手派遣事業）。

(3) 国際学術研究集会等、広く国際学術交流の推進に役立つ事業への補助を行う。

資金及び運用計画：

学会基金を当てる。原則として年間(1)と(2)については併せて若干名、(3)については、本学会が主催または共催するもので本学会会員の多数の参加が見込まれるものに限り、年間1件以内とする。

応募資格：

(1)については主としてアジア諸国の関連分野の研究者で、参加する研究集会で論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定の者。(2)については35才以下（応募期日時）の地球電磁気・地球惑星圏学会正会員で国際的な学術研究集会に出席し論文の発表又は議事の進行に携わる予定の者。

補助金の応募：

(1)については世話に当たる会員が、(2)については当該集会等へ出席する会員が、また(3)についてはその事業責任者である会員が運営委員会に申請、または、推薦する。なお、応募書類は(1)と(2)については別に定めるが、(3)については特に定めない。

補助金受領者の選考：

(1)については、年1回会報で公示し、運営委員会で決定／通知、補助金は講演会会場で附与する。

また(2)については、年2回会報で公示し、運営委員会で決定／通知、学会事務センターより送金する。

また(3)の選考にあたっては学識経験者よりなる選考委員会を設けることがある。

補助金受領者の義務：

補助金受領者は、当該活動の終了後30日以内に本人、世話会員または事業責任者である会員によって運営委員会に報告書を提出しなければならない。なお、この報告書は学会会報に掲載される。

事業報告：

会長は事業内容を年度毎にとりまとめ全賛助会員に報告する。

事業内容の変更：

本事業の内容に変更がある場合は、学会規約第18条により総会で承認を受ける。

大林奨励賞審査報告

大林奨励賞候補者推薦作業委員会（大志万直人委員長、岡野章一、荻野竜樹、向井利典、西田泰典、横山由紀子の各委員）からの大林奨励賞の候補者の推薦を受けて、当学会の第20期第4回の評議員会において慎重審議の結果、下記の2名に同賞を授与することを決定し、第108回総会において授与されました。大志万委員長をはじめとする同委員会の委員各位のご努力に感謝いたします。

(1) 笠羽 康正 会員「プラズマ波動観測によるジオスペース (Geospace) の構造とダイナミックスの研究」

地球周辺の宇宙空間、ジオスペース (Geospace) には様々な要因で非熱的な粒子が存在し、プラズマ波動が発生している。これまで数多くの研究が行われ、観測的には、幾つかの領域から特徴的な電磁波が放射されていることが明らかになっているが、そ

の生成機構、波動・粒子相互作用の研究は宇宙プラズマ物理学として多くの重要な問題を含んでおり、今もなお活発な研究が行われている。笠羽会員は、前者の特徴的な電磁波を使ってその電波源の構造とダイナミクスをリモートセンシングするという視点で幾つかユニークな成果を挙げてきた。具体的には、GEOTAIL衛星で観測されたプラズマ波動データを解析し、特徴的な周波数スペクトルをもつ電波の到来方向を決定し、発生源の特定からその領域の構造とダイナミクスに関する新しい視点をもたらしている。

まず、オーロラ・キロメータ電波放射 (AKR) の発生頻度の南北非対称性に関する研究で、周波数が高くなるにつれて、AKRの強度が夏よりも冬半球の方で強くなることを発見した。オーロラ活動の南北非対称性に関する議論は電離圏・磁気圏結合過程の問題としてホットな話題になっているが、笠羽会員の成果はその先駆けとなったものの1つである。

また、GEOTAILとWIND衛星との共同観測データを解析することにより、プラズマポーズ付近から放射される非熱的連続電波放射 (Nonthermal continuum radiation) のエネルギー源が、サブストームの際に夜側磁気圏に注入、朝方から昼間にドリフトしていく一連の高エネルギー電子であることを明らかにした。また、そのバンド状スペクトルのギャップが波源の電子サイクロトロン周波数に一致することを利用して、プラズマポーズの場所 (半径) の実時間リモートセンシングに成功している。

さらに、バウショック上流で観測される狭帯域 2fp電波放射の波源の構造とその励起機構に関しても重要な結果を示した。すなわち、電波の到来方向、空間分布、同時観測されたプラズマデータの詳細な統計解析によって、2fp電波放射の源が電子フォアショックに一致する事を証明すると共に、その電波強度が衝撃波近傍で弱い事を発見した。また、これらの結果に基づいて、波動-波動相互作用による2fp電波の発生機構が最有力であることを示唆した。

笠羽会員のこれらの研究成果は専門家の間で国際的にも高く評価されている。また、他にも多数の論文を発表し、さらに、「のぞみ」に搭載されている低周波波動観測装置の開発・試験でも重要な役割をはたしてきた。彼は地球惑星科学全般に視野が広く、これまでGeospaceを対象に行ってきた研究は比較惑星学的な観点からも更なる発展が期待される。

(2) 清水 久芳 会員「地球流体核のダイナミクスに関する理論的、観測的研究」

電磁流体力学のアプローチを通じ、地球流体核のダイナミクスを解明することは、地球惑星科学の一級の課題である。清水会員はその目的のため、理論的および観測的立場からすぐれた研究を行っている。

まず同会員は、回転する電磁流体系において浮力でドライブされる流れの時空間スケールについての理論的考察を行った。このような系では、コリオリ力とローレンツ力の双方が重要な働きをするが、両者は系に異方性をもたらし、流れ場は空間的に長い構造になったり短い構造になったりする。同会員はこれらの流れの場の内、特に長いモードの特徴を、準定常状態を仮定した系について系統的に調べた。さらに、内核の成長とともに外核-内核境界付近に軽元素が濃集した領域ができ、これに働く浮力が地球磁場のエネルギー源になっているという考えにもとづき、1km程度の大きさの軽い領域に働く浮力によって流体核に発生する流れ場の特徴を詳細に調べた。このように、核内部に実際に起こりうる状態を考慮した上で、流れ場の物理的素過程を明らかにしたことは核のダイナミクスを理解する上で重要な貢献をしている。

地球中心核のダイナミクスの理解のためには、核内のトロイダル磁場の強さを推定することが重要である。同会員は、海底ケーブルを用いた数1,000 kmスケールの地球電場の連続測定結果を解析し、電場観測から予想されるトロイダル磁場の数10年変動の振幅は、核-マントル境界におけるポロイダル磁場変動の振幅の1-100倍程度になることを明らかにした。観測は10年程度しか行われていないので、今後長期間観測を継続することによりさらに確かな制約を与えることが期待される。

さらに同会員は太平洋地域における長期的な地磁気観測ネットワーク構築に参加し、磁力計の長期安定性に重きをおいた性能試験、太平洋地域の地磁気永年変化の空間分布をとらえる目的での最適観測点配置についてのシミュレーションを行った。その結果、3成分の絶対値として10 nTの精度が得られることを示すと同時に、観測点増設に伴い、永年変化の情報がいかに改善されるかを定量的に示した。

回転する電磁流体系に本質的な物理的素過程を明らかにするアプローチと、長期間の電磁場観測・解析を結合させた同会員の研究は、流体核のダイナミクスの理解に大きな貢献をなすものと期待される。

(松本 紘会長)

第209回運営委員会報告

[日時] 2000年11月20日(月) 18:00~21:00

[場所] 板橋区立産文ホール第6会議室

(東京都板橋区栄町36-1)

[出席] 会長 松本紘

運営委員 麻生武彦、家森 俊彦、井口博夫、
岩上直幹、大村善治、品川裕之、田中良和、
綱川秀夫、津田敏隆、星野真弘、山崎俊嗣、
歌田久司

運営委員補佐 笹井洋一、湯元清文、
横山由紀子

[欠席] 運営委員 小野高幸、早川基

1. 地球電磁気研連の報告

平成12年10月23日に第18期委員会が開催され、委員長として上出委員、幹事として歌田委員が選出された。18期においては、IUGGにおいて、日本がホスト国としてサイエンスのアピールが出来るように準備・働きかけをしてゆく方針が示された。また、地球電磁気各分野の将来構想の提言のとりまとめを行なうことが委員長から提案され、了承された。本作業を進めるについて、学会の協力が要請された。

2. 新入会員・退会者の承認

新入会員

、越石 英樹(宇宙開発事業団)

、Joseph L. Kirschvink (California Institute of Technology)

、西村 香純(京都大学)

<学生会員>

、安達 はるか(茨城大学)

、魚住 禎司(九州大学)

、北村 健太郎(九州大学)

、中野 慎也(京都大学)

、津川 卓也(京都大学)

、井町 智彦(金沢大学)

、高野 博史(金沢大学)

、三島 稔明(神戸大学)

、成本 和俊(神戸大学)

、大内田 敦郎(東京工業大学)

退会者

野澤 恵(茨城大学)

加藤 賢一(通信総合研究所)

高橋 真理子(山梨県立科学館)

3. 学会内規改正案検討

前回運営委員会で改正した役員選挙関連の内規を再度検討し、問題のないことを確認した。同内規第7条の地球電磁気学研連連絡委員会等委員候補者の選出に関して、「内1名は地球電磁気・地球惑星圏学会会長をもってあてる。」という表現を、会長が学術会議の各研究連絡委員を既に3期以上務めている場合を考慮して、「内1名は地球電磁気・地球惑星圏学会会長もしくは運営委員をもってあてる。」と改正する。

4. 次期運営委員候補者の推薦

13名の立候補があった。これに加えて、運営委員会として以下5名の会員を立候補者として推薦する。

歌田久司、渡部重十、岡田敏美、橋本武志、
麻生武彦

また、松本会長より、学会会長の機能と継続性を強めるために、2年毎の選挙で選ばれた次期会長(President-elect)が2年後に会長を務めるというシステムの導入を検討することを、評議員会および総会で提案し、次期運営委員会への申し送りとする意向が示された。

5. 学会基金による国際学術交流事業運用規定の改正案

外国人招聘事業について、合同大会および分科会への参加も考慮して、運用規定で「本学会春期並びに秋期講演会に参加する」とあったのを、「本学会が主催または共催する研究集会に参加する」と改正し、若手派遣事業について、申請資格に35歳以下という制約を設けることを盛り込んだ改正案を作成した。これを総会で諮る。

6. 科学研究費細目について

科学研究費の理学・地球科学に惑星科学の分野を含めるために、細目の「超高層物理学」を見直すことが検討されている旨、会長より説明があった。

7. 合同大会レギュラーセッションの調整・検討

提案されたレギュラーセッションの調整を行い、以下のように決定した。

磁気圏物理 (200名 5コマ)、
磁気圏電離圏結合 (150名 4コマ)、
地磁気・古地磁気 (100名 3コマ)、

地球内部電磁気学 (100名 2コマ)、
大気圏・熱圏下部 (80名 3コマ)、
電離圏・熱圏 (70名 4コマ)、
宇宙・惑星観測 (50名 2コマ)、
太陽圏 (50名 2コマ)、
宇宙プラズマ (40名 2コマ)
(関連学会に天文学会を追加)、
宇宙天気 (50名 4コマ)

8. 会計年度の半年移行の確認

春の合同大会で決算予算承認を行うことを避けるために、会計年度を半年移行することについて前回に引きつづき検討したが、特に大きな問題がないことを確認した。具体的な実行時期は、総会に諮ってから検討する。運営委員の任期および選挙の時期については現状のままにしておく。

9. S-RAMP会議アブストラクト登録料について

本学会が共催して札幌で10月2日～6日まで開催されたFirst S-RAMP会議(第1回太陽地球間現象国際会議)の822件のアブストラクトを学術情報学研究所の学会発表データベースに登録することによって得られた収益は、一旦、学会の会計に組み込むが、そのまま会議の運営費として支出する。

但し、この経理事務手続きに経費がかかる場合は、それを差し引いて支出する。

10. 海外会員の会費について

海外会員は、現在の名簿で46名(内、日本人9名)いるが、EPS誌だけでなく、会報等、国内会員と同じものが送られている。JGG誌の購読会員であった経緯から、会費を6000円となっているのを再検討したが、学会に出席するのが難しく、支払う会費に対するメリットが国内会員より少ないことを考慮して、現状通り、6000円で運用する。

11. SCOSTEPについて

SCOSTEPはLong Range Planning Committee (LRPC)を結成し、2002-2008年に実施すべき国際共同研究を検討している。LRPCでの議論の結果はSCOSTEP Newsletterに掲載されているが、総会で説明をする。必要な提案をLRPCに入れておく必要がある。

12. 研究集会協賛の承諾

海洋調査技術学会 第12回研究成果発表会
(平成12年11月開催)

協賛 平成12年9月29日承諾

(大村 善治運営委員)

大林奨励賞を受賞して

宇宙科学研究所 笠羽 康正

大林奨励賞をいただき、まことに光栄に存じます。これまでご指導くださった方々、特に京大RASC・松本紘教授、金沢大・長野勇教授、富山県大・岡田敏美教授、宇宙研・向井利典教授に心より感謝いたします。受賞対象となった研究は、一個の天体として「地球磁気圏」を扱う観点から、地球が発する3つの電磁波動、オーロラキロメートル波(AKR)・Continuum電波・2fp電波を追求したものです。1995-8年にかけて行った博士論文の仕事を母体とし、現在に至ります。

私は京大物理第二で修士までを過ごし、赤外線素子の開発で修論を書きました。「すばる」の名で知られる大型望遠鏡計画が初期にあり、そこでの利用を念頭に置いたものでした。が、純粋科学に縛られるのが性に合わず一旦就職。仕事は面白かったのですが、一流になるのは大変、と言う現実を目の当



たりにし、偶然御面識を得た松本先生を頼って工学部へ「現場復帰」しました。当初の目論見は、馴染

みのある京都で計算機・ネットワーク・人工衛星の結合による新たな「工学」で学位を取る、そしてさっさと外に出ようというものでした。食うのが最優先、物理+電子工学+ α で十分喧嘩になる、と。

しかし世の中うまくいかないもので、Geotailによる観測＝「地球物理」へ放り込まれました。松本先生からは「テーマは自分で探せ」という素人には厳しい言葉。初めて出席した本学会で、大家先生の「最近の学生は物を知らん」とのコメントを聞き、「講義も受けとらんのに」と暗然としました。幸い、Geotailプラズマ波動グループは静電孤立波など低周波波動に追われ、愛媛大・村田さんのAKR解析を除くと高周波の「電磁波」はほぼ手付かずでした。結局、「遠隔観測」という故郷へ戻るちょっと悲しい結果となりました。

最初の一年は暗い日々でした。Shoemaker-Levy 9 (SL-9) 彗星の木星衝突現象から入りましたが、Geotailで見える800kHz以下は全くnegative。その過程で低周波電波の宇宙背景放射を「発見」しましたが、70年代論文の単なる再確認。”太陽type IIIバーストを見たら”との示唆も、Ulysses・Wind両衛星を駆使する欧米グループに勝てず断念。ただ、素人の私が機器性能や解析手法に精通できたのは、この一年に行った大量な試行のおかげでもあります。また、木星・太陽電波の解析の過程で欧米の衛星電波観測チームに知己を得ることもなりました。この両点が、限られた時間で最大限の結果を叩き出す上で大きな手助けとなりました。肝心の地球惑星物理の知識は現在まで乏しいままですが。

「AKR活動の南北非対称性」は、SL-9解析における木星電波の“前景”たる地球電波の時間変動を評価するなかで偶然に見つけたものです。AKRを考える上で木星電波の知識を流用できたのも幸運でした。始めは確信を持っていませんでしたが、東北大・熊本君がAkebono衛星で同様の兆候を独立に発見、両半球の電波活動の非対称性が日本の二衛星によって立証されることとなりました。次いで行った「Continuum burst」による夜側プラズマ圏界面の遠隔観測も、SL-9解析の過程で見つけた「筈を斜め上に掲げたような」謎の電波スペクトルがきっかけです。ゴダードでM. Kaiser氏にその正体を尋ねたのですが答えは頂けず。調べていくうち、尾部から注入される電子ジェットが励起する、という古い論文を掘り起こすこととなり、直ちにサブストームに伴うプラズマ圏界面の運動を電波スペクトルから準

実時間で決定するという仕事につながりました。前者は熊本君、後者は京産大・筒井先生によって説明が進められています。

現在に至ることになる電子フォアショック起源の2fp電波の解析は、太陽電波解析の挫折から始まります。この電波は太陽電波バーストや太陽圏界面電波と同じ種類と考えられていますが、肝心の励起機構が諸説紛々として定説がありませんでした。この点を調べるに、直接中に入れる電子フォアショックは良質の「実験室」、かつ本領域の通過頻度が最も高いGeotailが最も優位となります。これまで、電波源の構造決定と電波活動度の変動特性からその励起機構に制限を与えるとともに、数値実験によって電子・イオン双方の物理過程が絡むその生成過程をほぼ確定しました。生成過程の理論を主導してきたのはI. Cairns氏他の方々ですが、詰めの部分で私も貢献できたと思います。

学位取得後は、転出のつもりが富山県大・岡田先生に拾って頂き、即NOZOMIの総合試験に巻き込まれて金沢大・八木谷さんや井町君とともに低周波プラズマ波動観測器(LFA)の開発に奮闘、ようやく“純粋理学以外の”仕事もやる機会を得ました。99年秋より、宇宙研・宇宙科学企画情報解析センターからネットワークセキュリティやらデータベース構築やらを名目に給料が出るようになり、更に環境が整ってしまって少々困惑気味です。環境変化への対応遅れで新規アウトプットが底にあったので、これで賞を頂くのはまずいと密かに感じていたのですが、秋口からようやく新規の研究にも取り掛かることができ一息ついていきます。現在、2fp電波仕事の仕上げを目指すとともに、派生してきた衝撃波での電子加速・加熱の調査を並行して開始しつつあります。長期的には、出自のせいで理論天体物理やX線/赤外線天体物理といった新規分野の開拓史を間近で知る機会があったこともあり、「ああいう新規立ち上げに関わりたい」という思いがあります。既にそうした時代ではない、という声は承知しておりますが。

大林先生の風貌はRASCの所長室に飾られた写真でわずかに知るのみで、全く面識のない世代となります。こんな物知らずにまで賞をやるか、と「将来性」を買って下さった方々が怒られることなきよう、気合を入れて精進したいと思います。

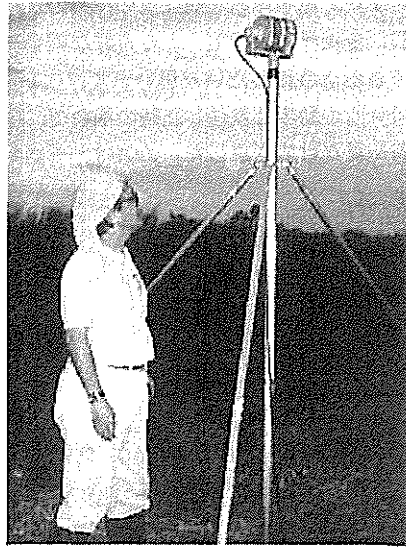
大林奨励賞を受賞して

東京大学地震研究所 清水 久芳

このたびは、地球電磁気・地球惑星圏学会より大林奨励賞をいただき、まことに光栄に思います。これまでに、厳しさに加え、無限の忍耐力と寛容さをもって指導してくださった北海道大学・西田泰典先生、フロリダ州立大学・David E. Loper 先生、東京大学地震研究所・歌田久司先生他の方々、推薦して下さった方々、その他関係者の皆様に心より感謝いたします。

受賞の対象となりました研究は、北海道大学理学部地球物理学教室在学中から今日まで継続している研究です。地球流体核の研究を始めた動機は、「地球磁場がどのようにしてできているか知りたい」という非常に単純なものでした。修士課程で地球ダイナモとそれに関係した電磁流体力学の研究したいと非常にnaive に西田泰典先生に告げたところ、少々困った表情をされたことを記憶しています。その後、非線形 α 効果を取り入れたキネマティックダイナモの計算を始め、磁場が逆転するダイナモを作ることに成功するのですが、問題を電磁氣的に扱うだけでは何も理解したことにならないのではないか、という疑問に悩まされました。この点について、西田先生や東京大学地震研究所の笹井洋一先生らと議論を重ねることにより、地球ダイナモの問題は、基本的には流体力学の問題である、という意識を強くもつことになりました。

その後、フロリダ州立大学地球流体力学研究所の大学院生として、回転系における電磁流体力学の素過程の研究をする機会を得ました。指導教官のDavid E. Loper 先生は、電磁流体力学の問題を、主に応用数学的手法を用いて研究しており、私も同様な手法を用いて、地球流体核内に存在すると考えられている、組成の違いによる小スケールの浮力によって作られる流れと磁場の理論的な研究をしました。様々な状況の下での流れと磁場のおおまかな空間構造と時間発展、その流れによるヘリシティと α 効果の生成の可能性などを求めることができました。しかし、目標であった、地球流体核内の α 効果の分布を求めることや、流れ・磁場の微細構造を求めるまでにはいたらず、これらは現在の私の研究テーマの1つとして残っています。Loper 先生のセミナーは、毎週学生が自分の研究の進展について話



す、という形式で行われていました。応用数学の学生にありがちなのですが、とりあえずすべてを含んだ方程式を無理に解いて、意味もわからずに快感にひたるとか、無理矢理理解こうとして行き詰まる、というのをそのセミナーで目撃（および体験）しました。そのような時、Loper 先生は、「物理的な状況を絵にしてみなさい」というコメントをしばしばしていました。問題を物理的に正確に理解していればそのような図は描けるはずで、また、解の何を調べれば物理が理解できるのか、解が求められないような状況ならば、どのように単純化したらよいか、そもそも、解を求める必要があるのかをまず考えなさい、というメッセージを含んだ言葉であったと理解しています。これは、現在の私の研究に大きく影響を与えています。

博士課程修了後、東京大学地震研究所に移り、電場と磁場の観測・解析も行うようになりました。半球計画が始まり、また、行武毅先生・歌田久司先生をはじめとする諸先輩方の努力によって可能となった、長基線海底ケーブルを用いた電場観測で得られたデータがある程度蓄積した、という時期で、わたしにとっては非常に幸運でした。このデータをつかせていただき、核-マントル境界におけるトロイダル磁場の強さの推定をしました。トロイダル磁場の強さの上限はおさえられたと考えていますが、不確定な要素もあり、この結果を今後更新して

いこうと考えています。さらなる電場変動データの蓄積や、電場観測網の充実に努力するのに加え、CMB 付近でのトロイダル磁場の振る舞いについて、地球ダイナモ理論からもアプローチしようと考えています。また、海半球磁場観測点の維持のためにも努力をし、全世界に向けて、より良好な磁場データを発信できるようにしたいと思います。

地震研究所の助手に就任した時の抱負で、「攻めます」と一言だけ書きました。これは、「絶対に守

りに入ることはないように」という、自分自身に対する喝でした。今回、大林奨励賞をいただいたことは、皆様から、今後も守りにまわることなく、未知の領域に踏み込んで行きなさい、と叱咤・激励されたことであると自分では解釈しています。微力ながら、これからも地球深部の物理プロセスの理解のために努力していこうと決意を新たにしております。これからも御指導のほどを、よろしくお願いたします。

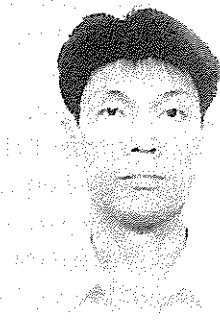
国際学術交流事業補助金受領者の報告

野田 寛大

東京大学大学院 理学系研究科
地球惑星科学専攻 博士課程

このたび国際学術交流事業の補助金を受けまして、2000年10月3日から6日にかけてオランダNoordwijkのESTECにて行われました The 34th ESLAB Symposium (The 3-D Heliosphere at Solar Maximum)に参加させて

頂きました。このような貴重な機会を与えてくださいました学会および関係の方々へ深く御礼申し上げます。今回のESLAB SymposiumはULYSSES打上げ10周年を記念して行われ、太陽、太陽圏、宇宙線、高エネルギー粒子、局所星間空間(Local Interstellar Medium/Matter, 以下LISMと表記)について多数の講演がなされました。私はLISM起源のヘリウム原子が太陽光に電離された後太陽風にピックアップされる、いわゆるピックアップイオンの人工衛星による観測データ解析を進めており、今年の春に「のぞみ」探査機で行われた観測の解析結果をポスターにて発表いたしました。この研究に着手してまだまだ日が浅い私ですが、博士論文提出の前にこのシンポジウムに参加させて頂き、海外の研究者の方々との議論できたことは非常に有益な経験となりました。また、一夜のディナーの席では、各テーブルを巡回して演奏する3人組の”流し”の方々が演奏する各国



の音楽に耳を傾けたり、また日本人の私を見つけて「上を向いて歩こう」を演奏して下さり、調子に乗って私も歌ってしまうなど、楽しい思い出できました。

さて、相対速度約25km/sを持つLISM中性粒子は太陽系にいる我々にとっては”星間風”として観測されます。ヘリウム原子はほとんど太陽光による放射圧を受けないために、”星間風”の風下側に重力によって密度が高まった領域(ヘリウムコーン)を形成します。軌道運動によって探査機がこのヘリウムコーンを横切る際にこの形状を調べ、星間空間の物理量を推定しようというのが現在我々がやっている研究です。星間空間の物理量は数年の短い時間スケールでは不変であろうと予想されますが、この方法で推定されたLISMの温度と密度がこの数年間で上昇してきているという報告が為されました。2000年春の我々の観測結果もこの結果と矛盾しないものであります。この上昇傾向が実際にLISMの物理量の変化を反映しているのかどうかは今のところ誰にも分かりませんが、これから先のテーマがまた一つ増えたこととなります。ACEなどの地球周辺の衛星観測ではヘリウムコーンを横切る11月末から12月のデータしか得られないのですが、「のぞみ」探査機では違う時期にデータが得られるため、時間あるいは空間変化を見るという観点から「のぞみ」のデータは大変貴重なデータであると言えます。今回の観測は2001年の8月ですが、今回のデータを解析するのを今から心待ちにしているところです。他に私が興味を引かれたものは、太陽系内ダストからの中性粒子が同じプロセスでピックアップされて生成した”内部起源”のピックアップイオンの観測、LISM

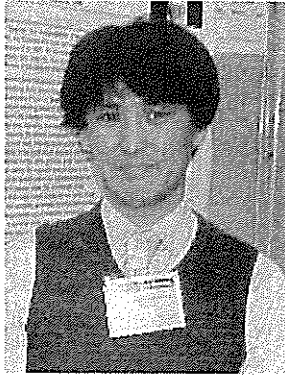
の電離状態を高速中性粒子(Energetic Neutral Atom, ENA)イメージングで観測しようという将来の観測提案、ENAと太陽風イオンの衝突電離後のX線放射が太陽系内X線背景放射の一部となっている、という発表などがあり、大変刺激的でした。

最後になりましたが、シンポジウム参加を薦めてくださった山内さん(IRF)、早川先生(ISAS)、中村先生、寺澤先生(東京大)に感謝いたします。また、現地でも山内さん、藤木さん(名大STE)のお二人に大変お世話になりました。どうもありがとうございました。今後もこの制度を利用して沢山の若手研究者の方々が海外の学会に参加されることを希望いたします。

中村 雅夫

京都大学 宙空電波科学研究センター

このたび国際交流事業の補助を受けて、2000年12月15日から19日にかけて San Francisco の Moscone convention center で開催された American Geophysical Union (AGU) の Fall Meeting に参加させて頂きました。現在、ボストクの私のような自由になる旅費を持たない研究者に、貴重な海外発表の機会を与えて頂いた学会および関係者の方々に心から感謝申し上げます。



AGU Fall Meeting には、今回を含めて5回目の参加になりましたが、今年は参加者が約6千人に増え、いつもながらその規模の大きさに圧倒されます。この Meeting 自身は、アメリカの国内学会の一つですが、Space physics 関連分野では、世界最大の国際学会の一つとあってよく、某ヨーロッパの大先生は、「アメリカの研究者達は、この学会の発表の内容が将来の研究補助金の当否に影響があり、隠し事や手抜きをしないので、ぜひとも聞きに行かなければいけない」とまで言っていました。実際、アメリカの稼働中の観測衛星の成果、および将来計画に関する熱の入った発表を聞く事ができました。また、アメリカの西海岸でおこなわれていることも

あり、日本からも地球物理関連の研究者が大挙して訪れ、行き帰りの飛行機が Over booking のため、搭乗直前まで席が決まらないほどの状態でした。その一方で、GEOTAIL衛星の大成功の後一息ついたのか、Space physics 関連の日本からの参加者が少なかったように思われたのが残念でした。

私はinstability at interface between reconnection jet and pre-existing plasma sheet というタイトルでポスター発表をおこないました。これまで、磁力線再結合の研究では、その解析の容易さから2次元構造を仮定した研究が広くおこなわれてきました。しかし、磁気圏尾部では、磁力線再結合により発生したと考えられるプラズマ流が、反地球向きにはプラズモイドと呼ばれる朝夕方向に幅広い構造をもつ一方で、地球向きには、Bursty Bulk Flow と呼ばれるような朝夕方向に局在化した構造をもつことが観測的に明らかになっています。このような現象を理解するためには、3次元構造を研究する必要があります。今回、イオンを粒子、電子を流体として取り扱うハイブリッド計算法を用いた3次元計算機シミュレーションをおこなうことにより、たとえ朝夕方向に一樣に磁力線再結合が起こった場合でも、不安定性により朝夕方向にも非一樣な構造が発生する可能性があることを発表しました。つまり、磁力線再結合により発生したプラズマ・ジェットの先端領域が交換型の不安定性により波打ち初め、その後の非線形成長により、磁力線再結合を起こした磁力線が集中した領域(magnetic bubble)が発生します。この領域は、他の領域を残して高速に移動するため、局在化した高速プラズマ流を発生させます。この不安定性は、磁気圏尾部の地球向きの局在化したプラズマ流を説明できる可能性を秘めており、また、太陽フレアや天体現象などへの広い応用も考えられます。この研究結果について、何人かの研究者から、非常に面白い結果であると興味を持っていただき、特に、P. L. Pritchett 博士には、わざわざ論文を持参して関連論文を紹介していただくなど、非常に有意義な機会を得ることができました。

最後にあらためて、本学会国際交流事業によりこのような貴重な機会を与えて下さった方々に感謝すると同時に、今後も多くの若手研究者が、本事業によって、国際学会の雰囲気を感じ、有意義で将来の研究に役立つ機会をもたれることを期待いたします。

学術会議研連報告

●地球電磁気研究連絡委員会

第18期地球電磁気研究連絡委員会の第1回会合が、平成12年10月23日に、第2回会合が平成13年1月19日に行なわれた。第1回会合では今期の委員長および幹事として、それぞれ上出委員および歌田委員が選出された。また、今期の活動計画として、2003年IUGG総会への対応、各種小委員会の設置、科学研究費細目の検討などが議論された。小委員会等は、新規に設置されるものではなく、地磁気観測小委員会、ICEAR WGおよび地球電磁気データWGの継続が認められた。また、今期研連の重要な目標として、地球電

磁気学の研究の将来構想の提言をとりまとめることについて委員長より提案があり、了承された。報告書のまとめ方については、“太陽地球系”および“固体地球”分野にそれぞれまとめ役（向井委員・本蔵委員）をおき、それぞれいくつかのサブワーキンググループを設置して、案を練るという方向が確認された。本年12月頃に、将来計画に関する共同シンポジウムを名古屋大学STE研で行なう予定である。提言のとりまとめには、ぜひ多くの会の協力をお願いしたい。

（歌田久司運営委員）

人事公募

● 京都大学宙空電波科学研究所

1. 職名・人員：助教授 1名
2. 所属：電波応用工学研究部門
3. 研究分野：レーダーリモートセンシング工学分野
4. 専門分野等： 大気レーダーシステム、及び観測技術の開発研究並びにレーダーによる赤道大気の研究

電波応用工学研究部門では、マイクロ波エネルギー伝送分野及びレーダーリモートセンシング工学分野が協力して、マイクロ波を用いた無線エネルギー伝送に必要な電波技術、及びMUレーダー電子制御技術を基盤として、地表から中層大気・超高層大気に至る大気圏を対象とした先端大気レーダーリモートセンシング技術並びにその応用技術など、宙空電波科学に関連する電波応用技術の開発研究を推進しています。また、マイクロ波エネルギー伝送実験装置（METLAB）やMUレーダーに関連する研究課題の国際・国内共同研究を推進しています。

レーダーリモートセンシング工学分野では、大気圏観測マルチレーダーシステムやMUレーダー新観測法並びに複合観測技術の開発研究、及び現在建設中の赤道大気レーダーなどによる赤道大気圏の

リモートセンシング研究を推進しています。

今回は当該分野に関連した研究実績、特に大気レーダー技術の開発・レーダーによる赤道大気の現地における観測研究を推進する能力と意欲を有する研究者を公募します。

なお、当該研究部門の関連する国内および国際的な共同研究の推進、ならびに全国共同利用研究センターの運営にも積極的に協力していただける方を希望します。

5. 必要書類：

- (1) 履歴書（学歴、学位、研究歴、職歴等、及び顔写真）
- (2) 研究業績リスト（主要業績は別刷り各3部を添付）
- (3) これまでの研究概要（2,000字程度）
- (4) 当該研究分野での研究計画と抱負（2,000字程度）
- (5) 2名の推薦者の推薦書。もし推薦書が取れない場合は応募者について意見を聞ける2名程度の方の氏名と連絡先を記入して下さい。

6. 応募締切：平成13年2月28日（水）必着

7. 応募書類提出先

〒611-0011 宇治市五ヶ庄

京都大学宙空電波科学研究センター
センター長 深尾 昌一郎
電話 0774-38-3806 FAX 0774-31-8463

※ 封筒の表に「電波応用工学研究部門・レーダー
リモートセンシング工学分野教官応募書類」と朱
書きし、郵送の場合には簡易書留にしてください。

8. 着任時期：できるだけ早い時期

9. 問い合わせ先：

電波応用工学研究部門 教授 深尾 昌一郎
電話 0774-38-3806 FAX 0774-31-8463
電子メール fukao@kurasc.kyoto-u.ac.jp
ホームページ
<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp>

● 姫路工業大学理学部 生命科学科教授公募

1. 職名・人員：教授 1名

2. 所属：理学部 生命科学科 地球テクトニクス講座
(助教授 森永 速男、助手 後藤 篤 が在職)

3. 専門分野：地球表層の物質の組成、構造、物性の
研究により、地球変動の歴史やメカニズムの解明
に意欲を有し、学部、大学院における地球科学関
連の講義、実験および研究指導を担当していただ
ける方。なお、地球科学関連の講座としては地球
科学講座（大政正明教授、芳賀信彦助教授、萩谷
健治助手）があります。

4. 着任時期：平成13年10月1日

5. 提出書類：

○履歴書

○業績リスト

○主要論文10篇の要約（各200字程度）と別刷各1部

○これまでの研究の概要（2000字程度）と今後の研
究・教育に対する抱負（2000字程度）

○推薦書または本人について問い合わせのできる方
2名のお名前と連絡先

6. 公募締切：平成13年4月20日（金）（必着）

7. 書類送付先：

〒678-1297 兵庫県赤穂郡上郡町光都3-2-1
姫路工業大学理学部長 平田 肇
tel 0791-58-0101（理学部 総務課）

8. 問い合わせ先：

〒678-1297 兵庫県赤穂郡上郡町光都3-2-1
姫路工業大学理学部 物質科学科 川村春樹
tel 0791-58-0158

9. その他：封筒に「地球テクトニクス講座教授応募
書類」と朱書きし、簡易書留で送付のこと。

なお、当理学部のホームページのURLは以下の通
りです。

<http://www.sci.himeji-tech.ac.jp>

SCOSTEP 2003-2008年将来計画への御意見を

太陽地球系物理学科学委員会（SCOSTEP）では、現在進行中のS-RAMP、EPIC、ISCS、PSMOS後の2003-2008年に実施する新たな国際協力事業計画の策定を開始しました。国内でも、対応する学術会議のSCOSTEP専門委員会で、関連する研究者の御意見を広くお聞きしながら、皆様の将来計画にとって有意義な、発展性のある計画を検討する予定です。現在SCOSTEPの将来計画委員会が考えている案やその他の詳細については、学会掲示板やSCOSTEP専門委員会のホームページ（<http://stelab.nagoya-u.ac.jp/scostep/>）で皆様にお知らせいたします。皆様の積極的なご意見を電子メールで、scostep@stelab.nagoya-u.ac.jp にお寄せください。

日本学術会議SCOSTEP専門委員会 藤井良一

SGEPSS Calendar

[2001年]

- 3月25日～30日 : 26th European Geophysical Society Nice, France
- 5月29日～6月2日 : AGU 2001 Spring Meeting Boston, U.S.A.
- 6月4日～8日 : 2001年地球惑星科学合同大会 国立オリンピック記念青少年総合センター、東京
- 7月17日～22日 : 第25回電離気体現象国際会議 名古屋国際会議場
- 7月23日～27日 : 10th International EISCAT Workshop 国立極地研究所、東京
- 8月1日～4日 : AP-RASC '01 2001年アジア太平洋電波科学会議 中央大学、東京
- 8月18日～30日 : IAGA-IASPEI Joint Scientific Assembly Hanoi, Vietnam
- 11月22日～25日 : 第110回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会 九州大学、福岡
- 12月10日～14日 : AGU 2001 Fall Meeting San Francisco, U.S.A.

[2002年]

- 4月22日～26日 : 27th European Geophysical Society Nice, France
- 5月28日～6月1日 : AGU 2002 Spring Meeting Washington D.C., U.S.A.
- 10月10日～20日 : 34th COSPAR Scientific Assembly(2nd World Space Congress) Houston, U.S.A.

SGEPSSカレンダーは会員からのお知らせで成り立っております。国内外の学会、研究会、委員会、予稿締切等、皆様に広めるべきことがございましたら会報担当までお知らせください。

地球電磁気・地球惑星圏学会

会長 松本 紘

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学宙空電波科学研究センター

TEL:0774-38-3805

FAX:0774-31-8463 e-mail: matsumot@kurasc.kyoto-u.ac.jp

総務 大村 善治

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学宙空電波科学研究センター

TEL:0774-38-3811

FAX:0774-31-8463 e-mail: omura@kurasc.kyoto-u.ac.jp

庶務 麻生武彦 (会報担当)

〒173-8515 東京都板橋区加賀1-9-10 国立極地研究所 北極圏環境研究センター

TEL:03-3962-4756

FAX:03-3962-5701 e-mail: aso@nipr.ac.jp

運営委員会

〒113-8622 東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21 (財)日本学会事務センター気付

TEL:03-5814-5810 会員業務 (入退会、住所変更等、会費、会誌)

TEL:03-5814-5801 学会業務 (庶務、窓口、渉外)

FAX:03-5814-5820

入会申し込みは運営委員会宛、研究助成金案内は総務宛、会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。
会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿をお待ちしています。

地球惑星科学関連学会

連絡会ニュース

No. 21

(2000年12月)

地球惑星科学関連学会2001年合同大会

のお知らせ

合同大会運営機構

会期：2001年6月4日(月)～8日(金)
(6月3日(日)青少年セミナー)
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

各種登録開始・締切日

● 講演登録

登録開始：2001年1月10日
締切：2001年3月30日午後5時

● 事前参加登録

登録開始：2001年1月10日
締切：2001年3月30日午後5時

● 青少年総合センターへの宿泊登録

登録開始：2001年2月1日
締切：2001年3月30日午後5時

上記の各種登録は下記の合同大会ホームページから行なっています。

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/>

どうしても電子投稿・登録の手段が確保できない方は、下記にご連絡下さい。

● 地球惑星科学合同大会運営機構 事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学理学部新1号館719室
E-mail: office@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp
Fax. 03-5800-6389

目次

- § 1 合同大会案内サマリー
- § 2 セッション案内
- § 3 個人情報登録, 参加登録, 講演登録, 宿泊登録
- § 4 投稿費および参加費

§ 5 青少年総合センターへの宿泊

§ 6 運営機構からのお知らせ

§ 1 合同大会案内サマリー

下記のURLに2001年合同大会に関する情報および各種登録ページが置かれています。

合同大会ホームページ

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/>

詳しくは上記のホームページをご覧ください。情報は随時更新しますので、参加者は是非、時々ご覧いただくようお願い致します。

§ 1. 1 各種の登録

以下の登録はすべて上記ホームページから行なって下さい。

- 1) 個人情報登録
- 2) 事前参加登録
- 3) 予稿集原稿登録
- 4) 宿泊登録

1), 2) は参加者全員に必須です。2) を行なうためには、前もって1) が必要です。ただし、昨年度登録済の方は再度行う必要はありません。講演申し込みをされる方は1), 2) に加えて3) 予稿集原稿登録を行なって下さい。共著の場合は、共著者についても1) が必要ですのでご注意ください。

会場の青少年総合センターへの宿泊を希望される方は、1), 2) に加えて、4) 宿泊登録を行なって下さい。

*当日発表される方も参加登録が必要です。昨年は参加登録をされずに、会場で直接発表される演者が多数いましたので、ぜひ事前登録されることをお勧めします。

§ 1. 2 住所変更

プログラムおよび予稿集CD-ROMは、事前参加登録者のみに5月末頃迄に発送される予定です。転勤・卒業等で住所変更が生じた方は、合同大会ホームページ

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/>

上で、4月30日までに住所変更手続きを行なって下さい。

§ 1. 3 各種登録締切日および費用

● 予稿集原稿登録

締切：3月2日(金) 午後5時
投稿費(1件につき)：1,500～3,000円
図の追加料金：1,000円

● 事前参加登録

締切：3月30日(金) 午後5時
参加費：一般9,000円, 学生6,000円

● 宿泊登録

締切：3月30日(金) 午後5時
(但し、定員を超えた場合にはこの前に締め切られます。)

宿泊費:

例年とおり、ユースホステルタイプ及びビジネスホテルタイプの固定スケジュールのものを用意します。

ユースホステルタイプ

4泊(6/4-7)コース 11,000~13,000円

ビジネスホテルタイプ

4泊(6/4-7)コース 19,000~21,000円

予約数の関係上、3泊・5泊コースも検討中。

§ 1. 4 保育希望の方へ

1-6歳児の託児サービス(利用時間に応じて実費負担)をご希望の方は以下のアドレスまで、電子メールでご連絡下さい。0歳児のいらっしゃる方、就学児童をお連れの方なども別途ご相談に応じます。

木戸 ゆかり

海洋科学技術センター

海底下深部構造フロンティア

〒237-0061 横須賀市夏島町2-15

E-mail:kidoy@jamstec.go.jp

§ 2 セッション案内

講演要旨の投稿は、1~2月中に合同大会ホームページ(§ 3参照)上で行なって下さい。最終締切りは3月2日(金)です。暗くならないためスライドが使用できないセッション会場がありますので、講演申込みの時ご注意ください。電子投稿に関する質問は下記で受け付けます:(土日・祝日を除く)

●地球惑星科学関連学会 2000年合同大会 登録事務局

〒530-0001 大阪市北区梅田2丁目4番9号

サンケイビル本館7階 株式会社ジェイコム内

E-mail:earth@jtbcom.co.jp

Fax: 06-6456-4105

どうしても電子投稿の手段が確保できない方は下記にご連絡下さい。

●地球惑星科学合同大会運営機構 事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部新1号館719室

E-mail:office@jmo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

Fax. 03-5800-6389

上記「合同大会ホームページ」にセッション一覧リストが置かれておりますので参照下さい。尚、それぞれのセッションについての問い合わせは、ホームページにあります各セッションの連絡先へお願いします。

§ 3 個人情報登録 事前参加登録 講演登録 宿泊登録

上記の全ての登録は§ 1で書いた「合同大会ホームページ」で行なって下さい。

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/>

登録内容は以下のとおりです:

1. 個人情報登録(個人情報 ID 番号 取得)
2. 事前参加登録, 予稿集原稿登録, 宿泊登録

●個人情報登録と個人情報 ID 番号

*既に個人情報登録をされて ID 番号を取得している方:

ID 番号は今年度も有効ですので再登録は必要ありません。

所属や身分が変わった方は「合同大会ホームページ」において個人情報変更を必ず行って下さい。ご自分の ID 番号やパスワードを忘れた方は「合同大会ホームページ」の「各登録方法について」にアクセスして問い合わせすることができます。

*まだ個人情報登録されていない方(共著者を含む):

まずは

個人情報登録

を行なっていただき、

個人情報 ID 番号

を取得して下さい。登録された個人情報は、個人情報 ID 番号によって参照され、参加登録、予稿集原稿登録、宿泊登録に利用されます。この際、講演者だけでなく共著者も個人情報 ID 番号の登録が必要です。共著者の個人情報 ID 番号が登録されていない場合は、予稿集に共著者名が載らないこととなりますのでご注意ください。個人情報登録後は、著者リストには個人情報 ID 番号を入力するだけで OK です。共著者がすでに個人情報登録を済ませている場合は、ID 番号を「合同大会ホームページ」にて検索できます。

個人情報登録のために必要な情報としては以下を予定しています:

氏名(漢字, カタカナ, 英語) 姓と名別々に

所属学会(複数選択式)

所属機関名(漢字, カタカナ, 英語)

所属機関名略称(漢字, 英語)(表示用)

所属機関住所(漢字, 英語)

身分(学生, 一般 選択式)

学生証番号(学生の場合)(学生確認用)

一般の場合タイトル(教授, 助教授, 助手, 等)

TEL, FAX, E-mail

これらのデータは、次年度以降の合同大会への各種登録の基礎データとして保存される予定です。

●事前参加登録, 予稿集原稿登録, 宿泊登録

詳細は§ 1に書いた「合同大会ホームページ」

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/>

をご覧ください。必要な情報は1999年大会、及び2000年大会とほぼ同じです。予稿集原稿は原則として、通常テキスト形式のみとします。図については、図処理用追加料金1,000円で受け付ける予定です。

●プログラム編集作業

現段階では仕様は未定です。各セッションのセッションマスター1名(提案者, 連絡先, コンピナー等のうちの1人)が、プロ

グラム編集用のホームページにて作業を行いません。

§ 4 投稿費および参加費

本年度より「郵便振り込み」のみで集めさせていただきます。予稿集原稿登録料と参加費は（センター宿泊の場合は宿泊費も）一括請求されます。参加申込み後、郵便振り込み用紙が郵送されます。

校費扱いにつきましては財務担当（中村 電話 03-5841-4591 メールはご遠慮下さい。）へお問い合わせ下さい。

§ 4. 1 予稿集原稿登録料

受付日時

1月10日(水)～2月23日(金) 午後5時 1,500円

2月23日夜～3月2日(金) 午後5時 3,000円

● 稿集原稿に図を入れた場合の、図処理用追加料金は1,000円です。

§ 4. 2 参加費

事前登録：3月30日(金) 午後5時まで

一般 9,000円

学生 6,000円

当日登録：大会期間中の会場の総合受付にて、現金払いのみ。

(大会当日は午前8時30分～午後3時の予定)

一律 12,000円

§ 4. 3 取消手数料

● 振込後、参加を取り消されても予稿集原稿登録料の返金はありませんので、あらかじめご了承下さい。

● 参加費の取消手数料

2000年5月15日(火)まで：1,000円

2000年5月16日(水)以降：取り消してできません

5 青少年総合センターへの宿泊

大会会場の青少年総合センター附属の宿舎の宿泊予約の締め切りは3月30日です。但し、確保しました部屋数には限りがありますので、申し込み数が定員を超えた場合にはその前に締め切ることもあります。宿泊予約は以下のホームページ上でのみ行っており、郵便、FAX等ではできません。

<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth2001/>

チェックインはセンター棟103号室(当日の大会受付と同じ部屋)で午後5時30分から午後9時までに行ってください。午後9時以降のチェックインはできませんのでご注意ください。

部屋はすべて個室(男女別)ですが、ビジネスホテルタイプ(バス・トイレ付き)とユースホステルタイプ(バス・トイレ共同でベッドメイキングは利用者が行う)の2種類があります。

● 宿泊費 § 1. 3をご参照下さい。

宿泊費、予稿集原稿登録料と参加費と共に一括請求されます。(§ 4参照)

詳細は「大会ホームページ」をご覧ください。

● 宿泊費の取消手数料

2000年6月1日(金)まで：無料

2000年6月2日(土)～8日(金)：1,000円

2000年6月9日(土)以降：全額(返金しない)

§ 6 運営機構からのお知らせ

§ 6. 1 大学LOCから運営機構へ

大会も回を重ね2001年大会で、12回目を数えます。21世紀の始めとなると同時に、その運営が各大学LOCから新たに発足した合同大会運営機構へと移行されて、初めての開催となります。過去の多くの研究者・大学関係者の皆様のご尽力を無駄にせず、今後継続的に、魅力溢れ意義ある大会の開催を目指します。何分にも新体制で、不慣れな部分も多く、行き届かないことも多々あると思いますが、立ち上げ時故とご了承いただき、同時に、地球惑星関連の研究者皆様ご自身の大会として育てていただきますようご協力をお願い致します。運営機構は合同大会開催へ携わろうとする各学会や研究者にオープンな組織です。多数の皆様への参加を歓迎いたします。ご意見ご希望がございましたら、遠慮なくご連絡下さい。今後の蓄積とさせていただきます。

運営機構のホームページを立ち上げております。運営機構のことだけでなく、2001年合同大会の準備状況、各学会へのリンク、地球惑星科学関連の専攻、学科、研究所へのリンク、連絡会のお知らせ、等を掲載していきます。

URL <http://www-jm.eps.s.u-tokyo.ac.jp/>

§ 6. 2 合同大会当日の受付時間について

合同大会期間中の受け付けは、以下の時間に開設する予定です。

当日参加受付

大会前日 3日(日) 受け付けしません

大会期間中の受付

4日(月)～8日(金)

AM 8:30～PM 3:00 センター棟 103号室

宿泊施設のチェックイン

4日(月) PM 5:30～PM 9:00 センター棟 103号室

3日(日)・5日(火)の受付も検討中。

§ 6. 3 懇親会場

ポスター会場近くのレセプションホールに最終日を除く毎夕、議論・歓談できる空間を設ける予定です。

§ 6. 4 展示申請

研究団体・出版社・企業などによる研究紹介・書籍・機器などの展示を希望される方は次の項目を文書に明記して、3月末日(最終締切)までに申請して下さい。申し込み用紙も事務局に用意しております。直接ご請求下さい。詳細と合わせて郵送致します。詳細は、後日ホームページ上に案内掲示予定です。

(1) 団体名・所在地

(2) 担当者氏名、電話、Fax、E-mail等

(3) 展示内容, 必要スペース・電力等

(宛先)

地球惑星科学合同大会運営機構 事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学理学部新1号館 719 室

E-mail: office@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

Fax. 03-5800-6389

§ 6. 5 合同大会会場における会合申込み

会合・集会を行う団体の部屋使用希望の申し込みは以下の5項目を明記の上, 4月末日までに運営機構総務局 2001 年担当責任者岩上(iwagami@eps.s.u-tokyo.ac.jp)までメールにてお願いいたします。WWW上では申し込みません。使用料は下表の通り。尚, 希望に沿えない場合があります。特に食事可能な部屋は2つしかありません。

- 1) 会合名称
- 2) 申込み責任者とそのメールアドレス
- 3) 希望する部屋の大きさ (下表参考)
- 4) 希望する時間 (開始・終了時刻)
- 5) 食事の希望有無

定員 160 人越え	¥10,000
定員 160 人まで	¥ 7,000
定員 80 人	¥ 4,000
定員 40 人	¥ 2,000
定員 20 人	¥ 1,000
定員 20 人 (食事可能)	¥ 4,000 (部屋代のみ)

部屋の利用時間は, 1コマの単位 (1.5 時間を目安) とします。

§ 6. 6 2001 年合同大会組織委員会の構成と連絡先

★大会委員長: 松浦充宏

matsuura@eps.s.u-tokyo.ac.jp

<<運営機構>> jm-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

★代表: 浜野洋三 hamano@eps.s.u-tokyo.ac.jp

★財務局: fc-ml@eps.s.u-tokyo.ac.jp

中村正人 2001 年担当責任者

mnakamura@eps.s.u-tokyo.ac.jp

木村 学 gaku@eps.s.u-tokyo.ac.jp

黒石裕樹 yuki@gsi-mc.go.jp

佐倉保夫 ysakura@earth.s.chiba-u.ac.jp

細川秀夫 htsuna@geo.titech.ac.jp

渡辺誠一郎 seicoro@eps.nagoya-u.ac.jp

★企画局: plan-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

木村 学 2001 年担当責任者

gaku@eps.s.u-tokyo.ac.jp

安藤雅幸 ando@seis.nagoya-u.ac.jp

浦辺徹郎 urabe@eps.s.u-tokyo.ac.jp

大谷栄治 ohtani@mail.cc.tohoku.ac.jp

末広 潔 suyehiro@jamstec.go.jp

深尾良夫 fukao@eri.u-tokyo.ac.jp

丸山茂徳 smaruyam@geo.titech.ac.jp

安原正也 masaya@gsj.go.jp

ガラスロバート bob@eps.s.u-tokyo.ac.jp

★情報局: it-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

田近英一 2001 年担当責任者

tajika@eps.s.u-tokyo.ac.jp

大村善治 omura@kurasc.kyoto-u.ac.jp

倉本 圭 keikei@ep.sci.hokudai.ac.jp

林 祥介 shosuke@gfd-dennou.org

古屋正人 furuya@eri.u-tokyo.ac.jp

宮本英昭 miyamoto@geosys.t.u-tokyo.ac.jp

塚本尚義 yuri@geo.titech.ac.jp

★総務局: ga-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

岩上直幹 2001 年担当責任者

iwagami@eps.s.u-tokyo.ac.jp

石橋純一郎 ishi@geo.kyushu-u.ac.jp

沖野郷子 okino@ori.u-tokyo.ac.jp

中村美千彦 lessy@geo.titech.ac.jp

浜野洋三 hamano@eps.s.u-tokyo.ac.jp

松浦充宏 matsuura@eps.s.u-tokyo.ac.jp

湯元清文 yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

渡部重十 shw@ep.sci.hokudai.ac.jp

★プログラム局 pro-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

阿部 豊 2001 年担当責任者・プログラム委員長

ayutaka@eps.s.u-tokyo.ac.jp

伊藤谷生 tito@earth.s.chiba-u.ac.jp

岩森 光 hikaru@eps.s.u-tokyo.ac.jp

小野高幸 ono@stpp3.geophys.tohoku.ac.jp

多田隆治 ryuji@eps.s.u-tokyo.ac.jp

中嶋 悟 satoru@geo.titech.ac.jp

原 辰彦 thara@kenken.go.jp

村江達士 murae@geo.kyushu-u.ac.jp

吉田武義 tyoshida@mail.cc.tohoku.ac.jp

吉田尚弘 naoyoshi@depe.titech.ac.jp

渡辺誠一郎 seicoro@eps.nagoya-u.ac.jp

★事務局 office@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

谷上美穂子 tanigami@eps.s.u-tokyo.ac.jp

学会選出プログラム委員

★地球化学会

大場 武 ohba@ksvo.titech.ac.jp

奈良岡 浩 naraoka-hiroshi@c.metro-u.ac.jp

★測地学会

古屋 正人 furuya@eri.u-tokyo.ac.jp

松本 晃治 matumoto@miz.nao.ac.jp

★地球電磁気・地球惑星圏学会

綱川 秀夫 > htsuna@geo.titech.ac.jp

早川 基 > hayakawa@stp.isas.ac.jp

★地質学会

安藤 寿男 > ando@mito.ipc.ibaraki.ac.jp

木村 克己 > kimura@gsj.go.jp

★日本岩石鉱物鉱床学会

石川 正弘 > ishikawa@ed.ynu.ac.jp

榎並 正樹 > enami@eps.nagoya-u.ac.jp

★鉱物学会

松井 正典 > matsui@geo.kyushu-u.ac.jp

坂本 尚義 > yuri@geo.titech.ac.jp

★惑星科学会

荒川 政彦 > arak@orange.lowtem.hokudai.ac.jp

高田 淑子 > toshiko@ipc.miyakyo-u.ac.jp

★第四紀学会

木 毅彦 > suzuki@comp.metro-u.ac.jp

中村 俊夫 > g44466a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp

★地震学会

鷺谷 威 > sagiya@gsi-mc.go.jp

谷岡勇市郎 > ytanioka@mri-jma.go.jp

★火山学会

高田 亮 > takada@gsj.go.jp

藤田 英輔 > fujita@geo.bosai.go.jp

★資源地質学会

今井 亮 > akira@tsunami.geol.s.u-tokyo.ac.jp

浦辺 徹郎 > urabe@eps.s.u-tokyo.ac.jp

(以上五十音順敬称略)

●お問い合わせ先

■大会全般・大会プログラムなど内容に関して

地球惑星科学合同大会運営機構 事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部新1号館719室

E-mail: office@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp

Fax: 03-5800-6389

■参加登録・予稿集原稿登録など実務作業に関して

地球惑星科学関連学会2001年合同大会 登録事務局

〒530-0001 大阪市北区梅田2丁目4番9号

サンケイビル本館7階 株式会社ジェイコム内

E-mail: earth@jtbc.com.co.jp

Fax: 06-6456-4105

(お問い合わせ受付時間)

月曜日～金曜日 9:30～18:00(土日・祝日を除く)

時間外にいただきましたお問い合わせにつきましては返答が

次営業日になりますのでご注意ください。

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース 第21号

2000年12月6日発行

発行: 地球惑星科学関連学会連絡会

連絡会幹事会会長 伊藤谷生

編集: 地球惑星科学関連学会連絡会

連絡会幹事会ニュースレター担当 原辰彦